

放課後子ども総合プランコーディネーター等研修

平成27年6月4日(木)～5日(金) 青森県総合社会教育センター 大研修室 第1研修室

放課後子ども総合プランは、地域で中心的な役割を担うコーディネーター等関係者の資質向上及び放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の連携を図るための情報交換等を行う研修会です。

平成27年度は6月4日(木)～5日(金)の2日間に渡って、青森県総合社会教育センターで開催されました。

6月4日は一般財団法人 児童健全育成推進財団 広報部事業部 課長 阿南 健太郎 氏をお迎えして、「保護者との関わり方や対応の仕方について」をテーマに、講義・演習をしていただきました。

翌5日の午前は弘前大学生涯学習教育研究センター講師深作 拓郎 氏をお迎えして、「放課後子ども総合プランにおけるコーディネーターの役割」について講義していただきました。また5日の午後には放課後子ども教室等における取り組みについて、情報交換及びラベルワークが行われました。

講師 阿南 健太郎 氏

保護者との関わり方や対応の仕方について

【保護者と向き合うための5か条】

- 保護者の気持ちに寄り添う
- 保護者同様に「子どものために」の思いを共有する
- 小まめな「ほう・れん・そう」をする
- 保護者同士の潤滑剤になる
- 悩んだときは「子どもの最善の利益」を優先



放課後子ども総合プランを考えるうえでの観点

- 子どもの放課後は誰のものか
→「子ども主体」「子ども自治」の視点の欠落が無いようにする
- 子どもにとって「遊び」とは何か
→「遊びの価値」の視点の欠落
- 子どもの発達との相関
- 子どもの権利条約との相関
- 「連携」の重視

講師 深作 拓郎 氏



地域での遊びや体験活動など、学校教育とは違う独自の教育的価値をいかに見いだしていけるか

放課後をコーディネートするために必要な観点

- コーディネーターは何をどうコーディネートするのか
- 「時間・空間・仲間」を提供する
- 仲間集団の形成や地域の多様な人々との交流や関係を構築する
- 自主的・組織的な活動（子どもの自治）を育む
- 子どもの教育文化活動に必要なさまざまな素材を提供し、文化の交流・発展をはかる

情報交換会

午後の情報交換会では、アイスブレイクを行ったあと、4つのグループに分かれて自分たちの活動について紹介しました。そのあと、以下の3点についてグループワークを行いました。

- 学校が地域の力を取り入れる（連携する）ことによるよい点は何か。
- 学校と地域がつながるための課題は何か。
- 課題を解決するためにはどうすればよいか。



〈参加者のアンケートから〉

- ・ 同じように子どもと関わる方々とのグループトークがとてもためになった。
- ・ 実際に現場で働く人たちの話を聞くことができ、大変参考になりました。講師からのアドバイス・助言も一つ一つなずきながら聞いていました。
- ・ 普段から苦手意識を持つことが多かった保護者との対応についてもいろいろと学ぶことができてよかった。
- ・ 子ども達が参加したい教室、子どもが行きたい教室、しっかりと心がけたいです。

〈講師紹介〉

	<p>阿南 健太郎 氏（一般財団法人 児童健全育成推進財団広報部事業部 課長） 大分市出身 2003年 財団法人 児童健全育成推進財団に勤務。 児童厚生員・放課後児童指導員等の研修事業、広報・出版、第三者評価に携わる。 2011年 東日本大震災・復興支援プロジェクトチームとして、被災地内外をつなぐ業務を担当。</p> <p>【外部講師・委員等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立正大学社会福祉学部非常勤講師 ・ 横浜市親と子のつどいの広場運営団体選定委員会委員
	<p>深作 拓郎 氏（弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師） 茨城県出身 2001年 法政大学 非常勤講師 2003年 早稲田大学大学院文学研究科 研究生修了 2004年 埼玉純真女子短期大学 講師 2009年 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師</p> <p>【主な著書・寄稿等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「なぜ、今「子育て支援」なのか」（編著：学文社） ・ 「子育て支援の創造」（編著：学文社） ・ 「地域で学び、地域で育つ子どもたち」（編著：学文社） 他